

令和 6 年度

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書



なかなおりマーク

滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

令和 7 年 8 月

滝 川 市 教 育 委 員 会

目 次

1 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会の会議の開催状況	1
(2) 条例・規則の制定状況	3

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価の方法について	5
(2) 点検・評価の流れについて	5
(3) 点検・評価対象事業について	5
令和6年度点検・評価対象事業一覧	6
(4) 点検・評価に関する報告書	
1 確かな学力の育成	7
2 豊かな心の育成	13
3 豊かな心の育成	18
4 健やかな体の育成	22
5 生涯学習の推進	30

1 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会の会議の開催状況

滝川市教育委員会会議は原則として公開で、毎月1回を基本として開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催しています。また、滝川市教育委員会が所管する事項について調査及び研究を行うことで様々な教育課題に対する活発な議論を行うため、滝川市教育委員協議会を設置しています。

ア 教育委員会会議（12回開催）

R 6 . 4 .23	報 告	3月分児童生徒の教育相談等における状況報告について 道費負担教職員人事の内申について 教育支援委員会議における審議・報告結果について 令和5年度卒業式及び令和6年度入学式における国旗・国歌の実施状況について 新ホール機能等検討会議について
	議 案	報告第1号 臨時代理について（令和6年度一般会計補正予算について） 議案第1号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第2号 滝川市教育支援委員会議規則の一部を改正する規則 議案第3号 滝川市教育支援委員会議委員の選出について 議案第4号 滝川市社会教育委員の委嘱について
	その他	各所管の年間業務計画について 運動会の日程について
R 6 . 5 .20	報 告	4月分児童生徒の教育相談等における状況報告について 道費負担教職員人事の内申について 一般財団法人滝川生涯学習振興会の経営状況について
	議 案	議案第1号 滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則 議案第2号 滝川市立学校職員服務規程の一部を改正する規程 議案第3号 滝川市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について 議案第4号 滝川市いじめ防止専門委員会委員の委嘱について 議案第5号 江陵中学校区学校運営協議会委員の任命について 議案第6号 明苑中学校区学校運営協議会委員の任命について 議案第7号 令和6年度教育予算6月補正について
R 6 6 .25	報 告	5月分児童生徒の教育相談等における状況報告について 道費負担教職員人事の内申等について
	その他	令和7年度から使用する中学校用教科用図書の見本版について
R 6 . 7 .19	報 告	6月分児童生徒の教育相談等における状況報告について いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察
	その他	外国語指導助手の退任及び採用について

R 6 . 8 .20	報 告	7 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について 新たな海洋センターの施設概要について
	議 案	議案第 1 号 滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について 議案第 2 号 令和 7 年度に使用する小学校用教科用図書の採択について 議案第 3 号 令和 7 年度から使用する中学校用教科用図書の採択について 議案第 4 号 令和 7 年度に使用する高等学校用教科用図書の採択について
	その他	令和 6 年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 滝川市における部活動地域移行に向けた取組について
R 6 . 9 .25	報 告	8 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
R 6 . 10.29	報 告	9 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について 道費負担教職員人事について 滝の川市民プール「水夢」代替施設検証事業の結果について
	その他	令和 6 年度全国学力・学習状況調査結果について～滝川市立小学校、中学校の学力の状況等～
R 6 . 11.26	報 告	10 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について 道費負担教職員人事について
	議 案	報告第 1 号 臨時代理について（学校職員の処分内申について） 議案第 1 号 滝川市立高等学校学則の一部を改正する規則 議案第 2 号 開西中学校区学校運営協議会委員の任命について 議案第 3 号 令和 6 年度教育予算12月補正について
	その他	滝川駅周辺地区再生整備基本計画 策定検討に係る中間報告
R 6 . 12.24	報 告	11 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察 陶芸センターの今後について
	議 案	議案第 1 号 滝川市立学校職員服務規程の一部を改正する規程 議案第 2 号 滝川市教育委員会事務局職員の懲戒処分について
	その他	令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
R 7 . 1 .28	報 告	12 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
R 7 . 2 .14	報 告	1 月分児童生徒の教育相談等における状況報告について 道費負担教職員人事の内申について
	議 案	議案第 1 号 令和 7 年度教育予算について 議案第 2 号 令和 7 年度教育行政執行方針について 議案第 3 号 令和 6 年度教育予算 3 月補正について 議案第 4 号 滝川市水泳プール条例を廃止する等の条例

	その他	令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について～滝川市立小学校、中学校の体力の状況等～ 滝川市における部活動の地域移行に向けた取組と今後の方向性について 新海洋センターの整備について 地域おこし協力隊（文化・芸術活動コーディネーター）の採用について
R 7 . 3 .27	報 告	2月分児童生徒の教育相談等における状況報告について 教育支援委員会議の概要について 滝川市新小学校整備基本構想（案）について 令和6年度卒業生進路決定状況について
	議 案	議案第1号 滝川市学校給食費の徴収及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則 議案第2号 滝川市立学校の児童及び生徒の災害共済給付に係る共済掛金の徴収に関する規則の一部を改正する部を改正する規則 議案第3号 滝川市水泳プール条例施行規則を廃止する規則 議案第4号 滝川市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第5号 道費負担教職員の任免に係る内申について 議案第6号 滝川市立学校教員及び滝川市教育委員会事務局職員の任免について
	その他	辞令交付式等

イ 教育委員協議会（6回開催）

開催日	調 査 及 び 研 究 内 容
R 6 . 5 .20	・新ホールの検討について（中間報告）
R 6 . 7 .19	・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
R 6 . 8 .20	・滝川駅周辺地区再生整備基本計画 策定検討に係る中間報告について
R 6 .10.29	・滝川市新小学校整備基本構想中間報告
R 7 . 1 .28	・令和7年度予算要求の概要について
R 7 . 2 .14	・令和7年度教育行政執行方針について

（2）条例・規則の制定状況

令和6年度に制定又は改正された教育関係条例の数は0件、教育委員会規則の数は6件です。
（施行年月日がR 6 . 4 .1～R 7 . 3 .31のもの）

ア 教育関係条例 なし

イ 教育委員会規則

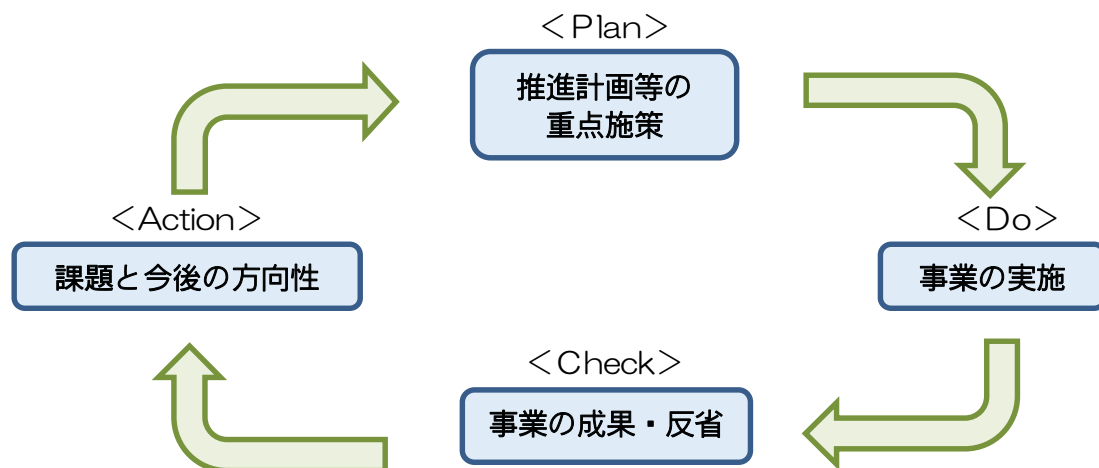
題 名	施行年月日
滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則	R 6 . 4 . 1
滝川市立高等学校学則の一部を改正する規則	R 6 . 4 . 1

滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	R 6 . 4 .23
滝川市教育支援委員会議規則の一部を改正する規則	R 6 . 4 .23
滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則	R 6 . 5 .20
滝川市立高等学校学則の一部を改正する規則	R 6 .11.26

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価の方法について

点検・結果のフィードバックについては、P.D.C.Aサイクルに基づき、令和6年度重点事業における目標と成果の確認を適切に実施し、来年度に向けた課題とその解決に向けての方向性を決定します。



(2) 点検・評価の流れについて

ア 点検・評価シートの作成

教育委員会所管課において、点検・評価シートを作成し、実施事業に対する評価・反省を行います。

イ 外部評価の実施

外部評価会議を開催し、点検・評価シートに基づくヒアリング（目標、実施状況、評価・反省点、今後の課題・取組の方向性）を実施し、各取組に対する評価・意見をいただきます。

ウ 点検・評価の報告書作成

外部評価の決定後に点検・評価報告書案として、直近の教育委員会会議に付議し、承認を受けたのち、市議会の所管常任委員会（総務文教常任委員会）に報告書を提出します。

報告後、市のホームページに掲載し、報告書を公表します。

(3) 点検・評価対象事業について

平成24年度から「滝川市教育推進計画」に基づき点検・評価を行っており、令和7年度は、令和6年度に実施した事業で、「滝川市教育推進計画」に位置付けられた施策の中から、教育行政執行方針や部目標として掲げたものを中心に決定した5事業について点検・評価を実施しました。

※次頁の「令和6年度点検・評価対象事業一覧」参照

「令和6年度点検・評価対象事業一覧」

1	教育推進計画の重点方針	1 確かな学力の育成	教育総務課
	教育推進計画の施策の方向性	子どもたちの確かな学力と主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身に付けることを通してキャリア発達を促す教育を推進する	
	教育推進計画の主な取組	I C Tを効果的に活用することによる学びの質の向上 キャリア教育の推進	
2	教育推進計画の重点方針	2 豊かな心の育成	教育総務課
	教育推進計画の施策の方向性	障がいや不登校、日本語能力、複合的な困難などによる多様な教育ニーズに丁寧に対応し、一人ひとりの能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す 家庭の経済状況や生活環境による児童生徒の学習環境の支障を緩和できるよう、スクールソーシャルワーカーや福祉施策と連携したきめ細かい支援を行う	
	教育推進計画の主な取組	特別支援教育の推進 不登校児童生徒への対応 学校教育における福祉関係機関等との連携強化	
3	教育推進計画の重点方針	2 豊かな心の育成	社会教育課
	教育推進計画の施策の方向性	子どもたちの豊かな情操や道徳心を培い、自他の生命の尊重、他者への思いやり、自己肯定感、人間関係を築く力、社会性などを育む	
	教育推進計画の主な取組	文化芸術等による子どもの豊かな心の育成	
4	教育推進計画の重点方針	3 健やかな体の育成	社会教育課
	教育推進計画の施策の方向性	キャリア教育を中心として、地域や企業と学校が連携して、リアルな体験活動の充実に取り組む また、地域の文化活動やスポーツ活動において、地域団体等との連携・協働により、文化活動やスポーツ活動を推進する	
	教育推進計画の主な取組	地域文化活動の振興 スポーツ活動の推進	
5	教育推進計画の重点方針	4 生涯学習の推進	社会教育課 ・ 図書館
	教育推進計画の施策の方向性	多様化する家庭環境に対し、学校・家庭・地域全体で家庭教育を支える環境を醸成する 地域社会との様々な関わりを通じ、子どもたちが安心して活動できる居場所づくりを進め、地域への愛着や誇りを子どもたちに育成する	
	教育推進計画の主な取組	スマートフォン等への対応 子どもの読書活動の充実	

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 6 年度	所管課名	教育総務課
推進計画の重点方針	1 確かな学力の育成		
推進計画の 施策の方向性	子どもたちの確かな学力と主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身に付けることを通してキャリア発達を促す教育を推進する		
推進計画の主な取組	I C T を効果的に活用することによる学びの質の向上		
達成目標 (Plan)	個別最適な学びと、協働的な学びを実現するため、これまでの実践と I C T とを最適に組み合わせ、様々な課題を解決し、教育の質の向上を図る。		
実施状況 (Do)	・小・中学校におけるデジタル教材および A I 教材(1)の整備拡充を行った。 (ア)授業支援アプリ「オクリンクプラス」(2)の整備を行い、授業における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた環境整備を行った。 (イ) A I 機能搭載の学習教材「ドリルパーク」(3)の整備を行い、個別最適な学びに向けた環境整備を行った。 (ウ) C a n v a (4)の自治体導入体制を整え、市内小・中学校の教職員および児童生徒が使用可能な環境にした。 (エ) E D U M A L L (5)の活用により、市内小・中学校の実情に合ったデジタル教材(教師用デジタル教科書等)の整備拡充を行った。 (1) A I 教材：人工知能型のデジタル教材 (2)(株)ベネッセ提供の授業支援アプリ。パソコン上のホワイトボードを個人で使ったり友達と使ったりすることで、個別学習や協働学習が即座に繰り返し行うことができる。 (3) A I 搭載のデジタルドリル。児童生徒の学習状況や正誤に合わせて、A I が約 7 万問の中から自動で問題を選定し出題する。 (4)ポスターやプレゼン資料などを豊富な素材から簡単に作ることができるほか、動画作成や共同ホワイトボード機能の利用なども可能なマルチデザインツール。 (5)(株)内田洋行が提供する教育コンテンツ配信サービス。デジタル教科書や動画教材など、約 1,400 タイトルの中から 1 つずつ年間契約で利用を可能とするサービス。 ・教職員研修の充実 (ア)夏季および冬季にそれぞれ I C T を効果的に活用するための教職員研修を行った。 (イ)「1 人 1 台端末を活用した実践事例集」を改訂し、市内教職員の利用促進を図った。 (ウ)ベネッセコーポレーションのオンラインサポート制度を利用して、各学校の教職員に対する支援制度を整えた。		
評価・反省点 (Check)	I C T 機器の効果的な活用および個別最適な学びと協働的な学びについて、「令和 6 年度全国学力学習状況調査」の結果から以下のとおり評価する。 ・はじめに、「I C T の活用について」は小・中学校ともに高い数値を得られた。 小学校(滝川：73.7% 全道 68.1% 全国 59.5%)		

	中学校（滝川：81.9% 全道 68.3% 全国 64.4%） ・次に、「個別最適な学び」に係る質問項目では、小学校で高い数値を得られた。 （滝川：87.4% 全道 84.1% 全国 84.3%） 一方、中学校においてはやや低い数値となったため改善が必要である。 （滝川：77.8% 全道 79.2% 全国 80.9%） 考えられる要因としては、個別最適な学びを実現するためのA I 機能搭載の学習教材「ドリルパーク」の実装問題がやや少なかったことや、研修の不十分さが挙げられる。 ・最後に、「協働的な学び」に係る質問項目については、小・中学校ともに全国・全道比で同等もしくはそれ以上の数値となったことから、一定程度の成果があったと言える。 小学校（滝川：94.1% 全道 91.2% 全国 91.6%） 中学校（滝川：92.2% 全道 92.3% 全国 92.3%）
今後の課題・ 取組の方向性 （Action）	教職員の効果的な活用に向けて、これまでの夏季冬季の研修に加え、学校や中学校区単位での研修を要請に応じて実施し、より現場の実情や要望に合ったきめ細やかな研修に努める。また、中学校における個別最適な学びの実現に向けて、上記研修のみならず、小中連携の取組をより積極的に行い、情報共有や授業改善を図っていく。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 6 年度	所管課名	教育総務課
推進計画の重点方針	1 確かな学力の育成		
推進計画の 施策の方向性	子どもたちの確かな学力と主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身に付けることを通してキャリア発達を促す教育を推進する		
推進計画の主な取組	キャリア教育の推進		

達成目標 (Plan)	自らの力で生き方を選択していくための必要な能力や態度を身に付けることができるよう発達段階に応じて、キャリアパスポート（児童生徒が活動を記録蓄積する教材）を活用し、体系的・系統的なキャリア教育実践の推進を図る。
実施状況 (Do)	・「総合的な学習の時間」において、田植えや稲刈り体験といった地域ならではの体験や様々な外部機関を招聘する等、各種体験学習を行うとともに、探究的な学習を取り入れ、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む活動を行った。 ・キャリアパスポートの活用により、小学校から中学校まで一貫した体系的・系統的なキャリア教育の推進を行った。 ・中学校キャリア教育推進事業の推進として、職場体験活動を市内全中学校で実施した。 ・高等学校インターンシップ事業の推進として、市内高校生が各事業所へ行き、職場体験活動を行った。
評価・反省点 (Check)	「令和 6 年度全国学力学習状況調査」の結果から以下のとおり評価する。 ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問項目については、小・中学校ともに高い数値が出ており、地元滝川に対して愛着を抱いていることがわかり、地域ならではの体験や外部講師による授業実施の成果があったと言える。 - 小学校（滝川：43.0% 全道 35.4% 全国 35.9%） - 中学校（滝川：52.8% 全道 36.1% 全国 39.6%） ・一方で、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問項目については、小・中学校ともに全国と比べやや低い数値となっている。 - 小学校（滝川：81.9% 全道 81.6% 全国 82.4%） - 中学校（滝川：64.6% 全道 65.4% 全国 66.3%） 以上のことから、地元滝川に関わる体験学習は引き続き実施しつつ、市外の企業や関係機関との連携をより行っていき、様々なキャリアの道があるということを児童生徒が実感できる環境づくりに努めていきたい。
今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	課題として、地域体験を通じた郷土愛は育っている一方、「将来の自分の姿」について具体的に思い描けていない児童生徒が一定数いることが挙げられる。そのため、ICT等を効果的に活用しながら、市外・道外の企業関係機関等との交流・連携を図り、将来の選択肢や可能性を広げる体験機会を創出していく。

全体を通じて（評価ポイント）

第3期滝川市教育推進計画を策定し、令和5年度から「未来を切り拓く自立型人材の育成」「誰もが学び続けることができる共生社会の実現」という2つの基本理念の下、各種施策を進めることにより、様々な取組を推進しております。今後も引き続きICTを活用して児童生徒の学習状況や課題を教職員が共有しながら、「個別最適で協働的な学び」の実現に向けた授業改善に取り組めるよう推進してまいります。

キャリア教育についても、児童生徒にとって単発的な活動で終わるのではなく、「準備」「体験」「振り返り」「共有」のプロセスを通じて学びを深め、自己理解や将来設計に結びつけられるよう推進してまいります。

外部評価会議委員からの評価・意見

- ・テストの点数だけではなく、人間として生きる力（思考力・判断力・表現力や学びに向かう力など）を付けるために、子どもの興味関心を引き出し、伸ばしていくような経験や体験の取組を進めてほしい。
- ・家庭生活の安定が、結果的に学力の向上やいじめ問題の改善につながると思う。子どもの生活安定に向けた居場所づくりや関係各所との連携も重要。
- ・AIドリルから分かる教育データを活用して、家庭での学習状況や定着等を分析して今後に生かしてほしい。
- ・ICTの活用など、時代とともに授業がより良くなっているように感じている。
- ・児童生徒に様々な経験をさせるためには、学校だけの力ではなく教育委員会や各方面の力が不可欠である。現在も多くの企業に協力をいただいていることから、教育委員会のこれまでの取組は素晴らしいので、今後も続けてほしい。
- ・滝川で学びたいと思えるような魅力的な学習環境整備を高校までつなぎ、子どもの流出を減らしてほしい。

確かな学力の育成 ICTを効果的に活用することによる学びの質の向上

Plan (達成目標)

個別最適な学びと、協働的な学びを実現するため、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、様々な課題を解決し、教育の質の向上を図る。

Do (実施状況)

ICT研修

【ねらい】

1人1台端末を活用した学習の在り方について、実践的な研修を行うことで、市内小・中学校教職員の指導における資質・能力の向上を図る。

【参加者の声】

「本市で契約のロイロノートが次年度以降使用できなくなるので、その代わりに使っていきたい。」

「新しいものを導入する際に、このような使い方を学ぶ機会を設けていただきありがとうございました。」

「今後オクリンクプラスを活用した授業を行いたい。」

「また研修会を開いていただきたいです。」



個別最適な学びに向けたICT活用研修



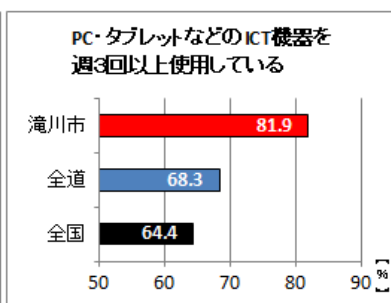
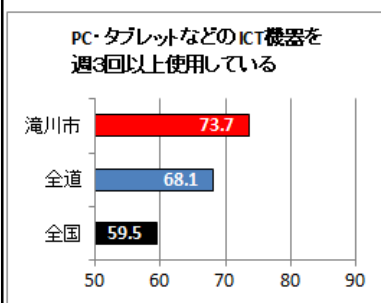
協働的な学びに向けたICT活用研修

Check (評価・反省点)

いずれも「令和6年度全国学力学習状況調査」の結果から以下のとおり評価する。

【小学校】 ICTの活用について

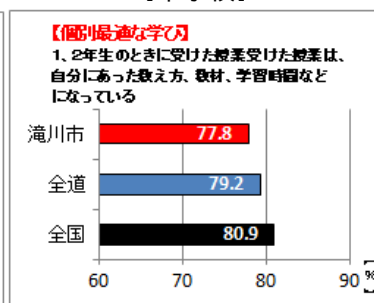
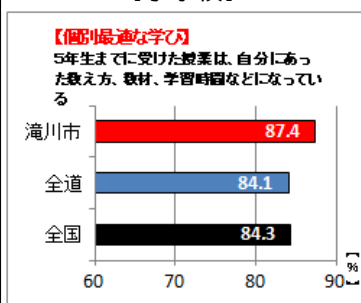
【中学校】



小・中学校ともに高い数値を得られた。

【小学校】 個別最適な学びについて

【中学校】



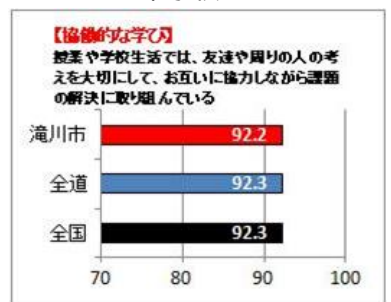
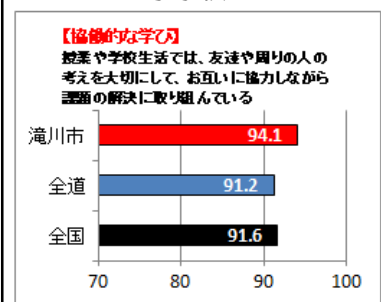
小学校では高い数値を得られた。

一方、中学校においてはやや低い数値となったため改善が必要である。

協働的な学びについて

【小学校】

【中学校】



小学校では高い数値を得られた。

中学校では、ほぼ同等だった。

「協働的な学び」については、小・中学校ともに全国・全道比で同等またはそれ以上の数値となったことから、一定程度の成果があったと言える。

Action (今後の課題・取組の方向性)

教職員の効果的な活用に向けて、これまでの夏季冬季の研修に加え、学校や中学校区単位での研修を要請に応じて実施し、より現場の実情や要望に合ったきめ細やかな研修に努める。また、中学校における個別最適な学びの実現に向けて、上記研修のみならず、小中連携の取組をより積極的に行い、情報共有や授業改善を図っていく。

考えられる要因としては、個別最適な学びを実現するためのAI機能搭載学習教材「ドリルパーク」の実装問題数がやや少なかったことや、研修の不十分さが挙げられる。問題数については、令和7年4月にアップデートが行われ、小・中学校ともに問題数が大幅に追加された。今後、より研修の機会を設けていき、全学校で積極的に活用していくよう取り組んでいく。

【参考事例】
ICTを活用した協働的な学び(小学校3年生)



ピン打ちによる情報共有の
高度化・複合化・共有化

「チャット機能を用いた
情報共有 他者参照 感想発表」

確かな学力の育成 キャリア教育の推進

Plan (達成目標)

自らの力で生き方を選択していくための必要な能力や態度を身に付けることができるよう発達段階に応じて、キャリアパスポート(児童生徒が活動を記録蓄積する教材)を活用し、体系的・系統的なキャリア教育実践の推進を図る。

Do (実施状況)

地域の特性を生かした体験活動

【ねらい】

「総合的な学習の時間」において自ら課題を見つけ解決していく探究的な学習を取り入れ、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む。

【取組概要】

田植えや地元企業の工場見学(松尾ジンギスカン等)といった地域ならではの体験や、様々な外部機関を招聘する等、各種体験学習を行うとともに、探究的な学習を取り入れ、児童生徒が自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む活動を行った。



コミュニティスクールを活用した
田植え体験学習(小学5年生)



ゲスト講師を招いての紙袋ランタン
作り体験授業(小学3年生)

中学校キャリア教育推進事業(職場体験)

【ねらい】

一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を実社会での職場体験活動を通じて育み、勤労観・職業観の醸成といったキャリアの発達を促す。

【取組概要】

- ・市内中学校3校に対し、延べ133事業所に協力いただいた。
- ・保健福祉部と連携し、市内の医療・福祉事業所における職場体験機会の確保に努めた。
- ・各学校の担当教諭から良い評価を受けた。
「生徒にとって良い経験になったと思う。」



市内の医療・福祉事業所での体験
(保健福祉部と連携)



市内スーパーでの職場体験

Check (評価・反省点)

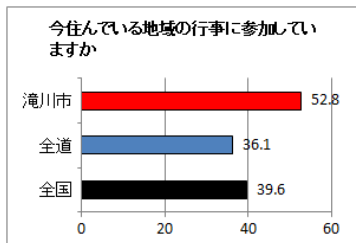
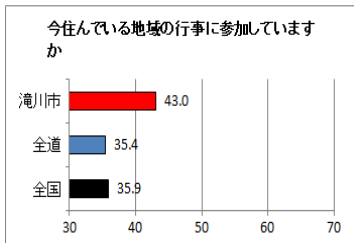
「令和6年度全国学力学習状況調査」の結果から以下のとおり評価する。

『第3期滝川市教育推進計画』(令和5年度～令和9年度)にて、
「この地域の将来を担う児童生徒の育成(p.12)」
「地域への愛着や誇りを子どもたちに育成する(p.27)」の記載から、
本項目を評価項目として取り上げる。

【小学校】

郷土愛

【中学校】

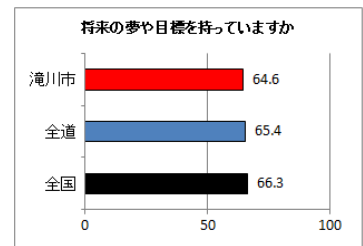
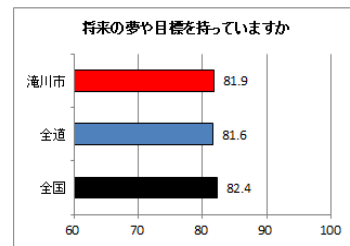


小・中学校ともに高い数値が出ており、地元滝川に対して愛着を抱いていることがわかる。
地域ならではの体験や外部講師による授業実施の成果があったと言える。

夢・目標

【小学校】

【中学校】



一方で、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問項目については、小・中学校ともに全国と比べやや低い数値となっている。

このことから、地元滝川に関わる体験学習は引き続き実施しつつ、市外の企業や関係機関との連携をより行っていき、様々なキャリアの道があるということを児童生徒が実感できる環境づくりに努めていきたい。

Action (今後の課題・取組の方向性)

課題として、地域体験を通じた郷土愛は育っている一方、「将来の自分の姿」について具体的に思い描けていない児童生徒が一定数いることが挙げられる。そのため、ICT等を効果的に活用しながら、市外・道外の企業関係機関等との交流・連携を図り、将来の選択肢や可能性を広げる体験機会を創出していく。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 6 年度	所管課名	教育総務課
推進計画の重点方針	2 豊かな心の育成		
推進計画の 施策の方向性	障がいや不登校、日本語能力、複合的な困難などによる多様な教育ニーズに丁寧に対応し、一人ひとりの能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す 家庭の経済状況や生活環境による児童生徒の学習環境の支障を緩和できるよう、スクールソーシャルワーカーや福祉施策と連携したきめ細かい支援を行う		
推進計画の主な取組	特別支援教育の推進		

達成目標 (Plan)	一人ひとりの障がいの状況に応じたきめ細かなニーズを把握し、多様な教育ニーズに丁寧に対応し、一人ひとりの児童生徒の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す。
実施状況 (Do)	・教育支援委員会議を年間 10 回実施し、ニーズ把握に基づく教育支援計画の策定を進めるなど、一人ひとりの児童生徒の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す取組を行った。 ・特別支援学級などに入級を要する児童生徒の教育相談を実施した。 ・通級指導教室の拡充に関しては、文部科学省の事業である「効果的かつ効率的な巡回指導の実施に向けたモデル事業」の実践地域に指定されているため、滝川第三小学校を配置校として滝川第一小学校及び江陵中学校を巡回校、通級教室が開設された東小学校を連携校として巡回指導リーダー教員が各校を巡回することで各校における校内支援体制の整備を進めた。 「通級による指導」とは、大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部、障害に応じた特別の指導を特別な場（通級指導教室）で受ける指導形態。 ・日常的な医療的ケアを必要とする児童に対し、訪問看護ステーションと連携し看護師を派遣し医療的ケアを実施した。
評価・反省点 (Check)	・教育支援委員会議を実施することで、組織的に個に応じた教育支援計画の策定を進めることができた。 ・通級指導教室については、巡回指導リーダー教員が巡回校や連携校に指導・助言することで校内体制の整備を進め、令和 6 年度の東小学校の新規開設を順調に進めた。潜在的に通級指導教室を利用したと考えている児童生徒への情報発信が重要である。 ・医療的ケアを求める児童に対応したが、今後も予算や人員の確保がスムーズにいくように関係各所との調整を進めていきたい。
今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	引き続き、一人ひとりの障がいの状況に応じたきめ細かなニーズを把握し、その多様な教育ニーズに組織的かつ丁寧に対応し、一人ひとりの児童生徒の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 6 年度	所管課名	教育総務課
推進計画の重点方針	2 豊かな心の育成		
推進計画の 施策の方向性	障がいや不登校、日本語能力、複合的な困難などによる多様な教育ニーズに丁寧に対応し、一人ひとりの能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す 家庭の経済状況や生活環境による児童生徒の学習環境の支障を緩和できるよう、スクールソーシャルワーカーや福祉施策と連携したきめ細かい支援を行う		
推進計画の主な取組	不登校児童生徒への対応		

達成目標 (Plan)	児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指し、適応指導教室をはじめ、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと学校が連携協力し、初期段階から組織的な支援体制を構築する。併せて、診断ツールを活用し日常の教育活動に対する児童生徒の満足感や充足感を把握し、その結果に応じた取組内容の見直しを行うなど、不登校児童生徒を発生させないための未然防止策を強化する。
実施状況 (Do)	・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーが不登校児童生徒や学校に不安感や悩みのある児童生徒に寄り添うことで学校へ足が向く、適応指導教室に通おうとするなど、各自の社会的自立のきっかけとなった。 ・学校から足が遠く児童生徒に対しては、学校と連携し適応指導教室（ふれあいルーム）への通級を促した。適応指導教室で生活や学習のリズムを取り戻し、自分の居場所があると実感することで再び学校へ通おうとする意欲を醸成した。 ・「QU」や「ほっと」などの診断ツールを用いて、児童生徒の思いや学級の状況を可視化することにより不登校児童生徒を発生させないための未然防止対策の強化を進めた。 「QU」～学校生活における児童生徒の満足度や意欲、学級集団の状態を把握するための心理テスト。 「ほっと」～児童生徒のコミュニケーションスキルの状況を発達段階に応じて測定できる質問紙調査。 ・登校はできるが教室には入りにくいという児童生徒に対しては、各学校で教室以外の学びの場を設定しＩＣＴ端末を活用し学習サポートを行った。 ・登校できない児童生徒に対してもＩＣＴ端末を活用し、授業配信やAIドリルを活用するなど学びの機会を保障した。
評価・反省点 (Check)	・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーは学校と連携し不登校児童生徒の置かれている状況に応じて適切な関わり方を模索し本人及び家庭との関係を構築した。 ・適応指導教室に関しては、不登校児童生徒の居場所として機能し、社会的自立のきっかけとなった。令和 7 年 3 月時点では 16 名が利用した。
今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指し、適応指導教室をはじめ、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと学校が連携協力し、初期段階から組織的な支援体制を構築する。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和6年度	所管課名	教育総務課
推進計画の重点方針	2 豊かな心の育成		
推進計画の 施策の方向性	障がいや不登校、日本語能力、複合的な困難などによる多様な教育ニーズに丁寧に対応し、一人ひとりの能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す 家庭の経済状況や生活環境による児童生徒の学習環境の支障を緩和できるよう、スクールソーシャルワーカーや福祉施策と連携したきめ細かい支援を行う		
推進計画の主な取組	③学校教育における福祉関係機関等との連携強化		

① 達成目標 (Plan)	学校を窓口として、家庭的に困難を抱える子ども等を早期の段階で生活支援や福祉制度につなげられるようスクールソーシャルワーカーを活用した福祉部門と教育委員会・学校等との連携強化を図る。
② 実施状況 (Do)	・不登校の原因が家庭にも起因する児童生徒に対しては、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問や個別の面談などの支援を積極的に実施することで、状況改善の一助とした。 ・要保護児童対策連絡協議会との連携を密に行い、関係者が一堂に会し、児童生徒への理解を深めるケース会議を実施し、サポート体制を構築した。
③ 評価・反省点 (Check)	学校と福祉関係機関の連携を密にすることで、必要に応じて相談及びケース会議を開催することができた。一方で、効果がすぐ出る事例ばかりではないので、継続的な関わりや情報の交流が必要である。
④ 今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	福祉部門や教育委員会に学校側が躊躇することなく家庭的に課題のある子どもの相談ができる関係を構築する。そのためにも、早期の段階で生活支援や福祉制度につなげられるようスクールソーシャルワーカーを活用した福祉部門と教育委員会・学校等との連携強化を図る。

全体を通じて（評価ポイント）

不登校児童生徒への対応は滝川市の大きな課題となっています。困り感を抱える児童生徒には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどが個の状況に応じた対応を家庭や学校と連携しながら進めてきました。学校内においては、特別支援学級だけではなく通級指導教室も整備し多様な教育ニーズに丁寧に対応できる取組を進めています。学校に足が向かない児童生徒に対しては、適応指導教室や学校の別教室を学びの場として設定しました。不登校児童生徒にはICT端末を活用した授業配信やAIドリルを実施するなど、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行ってまいります。

外部評価会議委員からの評価・意見

- ・通級指導教室をはじめとした特別支援教育が充実していると感じた。きめ細かい教育ニーズに対応することは、全ての児童生徒に安心感を与えることにつながる。引き続き、取り組んでいただきたい。
- ・「ほっと」等各種診断ツールの良さは十分に伝わった。その中でも、有料だが、個人及び学級の様子を可視化できる「ハイパーQU」においては、不登校の未然防止や教員の負担軽減という観点から、教育委員会として予算等の後押しが必要になると思うが、市内の全小・中学校での活用を検討してほしい。
- ・不登校の理由が、児童生徒一人ひとりによって異なるため、学校も苦勞していると思う。コロナ禍以降の児童生徒および保護者の学校に対する考え方の変化や地域とのつながりの希薄さなどが主な原因であると考えられるが、今後も、児童生徒一人ひとりに寄り添う取組を継続してほしい。

豊かな心の育成 特別支援教育の推進

Plan (達成目標)

一人ひとりの障がいの状況に応じたきめ細かなニーズを把握し、多様な教育ニーズに丁寧に対応し、一人ひとりの児童生徒の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す。

Do (実施状況)

- ・教育支援委員会議を実施し、児童生徒の能力・可能性を最大限に伸ばす取組を行った。
- ・「通級指導教室の拡充」に関しては、滝川第三小学校を配置校として滝川第一小学校及び江陵中学校を巡回校、通級教室が開設された東小学校を連携校として「巡回指導リーダー教員」が各校を巡回し、校内支援体制の整備を進めた。
- ・日常的な医療的ケアを必要とする児童に対し、看護師を派遣し医療的ケアを実施した。



Check (評価・反省点)

- ・教育支援委員会議を実施し、組織的に個に応じた教育支援計画の策定を進めることができた。
- ・通級指導教室については、巡回指導リーダー教員が巡回校や連携校に指導・助言することで校内体制の整備を進めた。潜在的に通級指導教室を利用したい児童生徒への情報発信が重要である。
- ・医療的ケアを求める児童に対応したが、今後も予算や人員の確保がスムーズにいくように関係各所との調整を進めていきたい。

Action (今後の課題・取組の方向性)

一人ひとりの障がいの状況に応じたきめ細かな教育ニーズに組織的かつ丁寧に対応し、一人ひとりの児童生徒の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を目指す。



豊かな心の育成 不登校児童生徒への対応

Plan (達成目標)

児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指し、適応指導教室をはじめ、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと学校が連携協力し、初期段階から組織的な支援体制を構築する。併せて、診断ツールを活用し日常の教育活動に対する児童生徒の満足感や充足感を把握し、その結果に応じた取組内容の見直しを行うなど、不登校児童生徒を発生させないための未然防止策を強化する。

Do (実施状況)

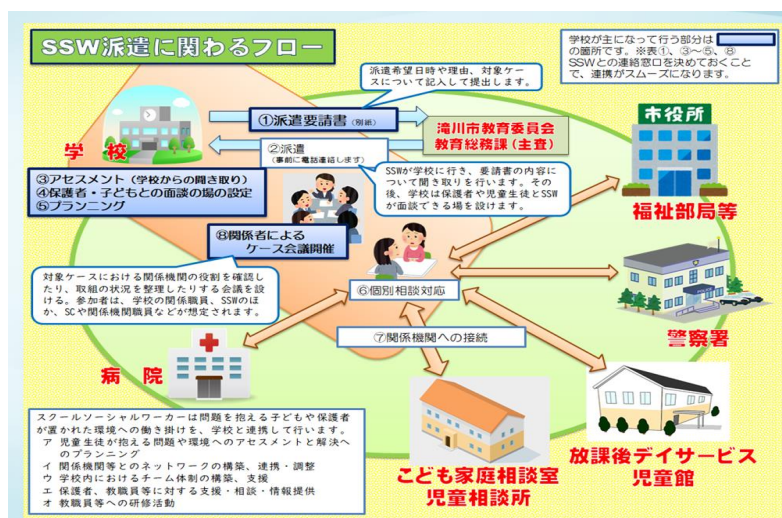
- ・スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）が不登校児童生徒や保護者に寄り添うことで、各自の社会的自立のきっかけとなった。
- ・学校から足が遠のく児童生徒に対しては適応指導教室（ふれあいルーム）への通級を促した。
- ・QUやほっとなどの診断ツールを用いて、不登校児童生徒を発生させない未然防止対策を強化した。
- ・各学校で教室以外の学びの場を設定しICT端末を活用し学習サポートを行った。

Check (評価・反省点)

SC・SSWは学校と連携し不登校児童生徒の状況に応じて適切な関わり方を模索し本人及び家庭との関係を構築した。適応指導教室に関しては、不登校児童生徒の居場所として機能した。

Action (今後の課題・取組の方向性)

児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指し、適応指導教室をはじめ、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと学校が連携協力し、初期段階から組織的な支援体制を構築する。



豊かな心の育成 学校教育における福祉関係機関等との連携強化

Plan (達成目標)

学校を窓口として、家庭的に困難を抱える子ども等を早期の段階で生活支援や福祉制度につなげられるようスクールソーシャルワーカーを活用した福祉部門と教育委員会・学校等との連携強化を図る。

Do (実施状況)

- ・不登校の原因が家庭にも起因する生徒に対しては、SSWによる家庭訪問や個別の面談などの支援を積極的に実施することで状況改善の一助とした。
- ・要保護児童対策連絡協議会との連携を行い、児童生徒への理解を深め、サポート体制を構築した。

Check (評価・反省点)

必要に応じて相談及びケース会議を開催することができた。一方で、効果がすぐ出る事例ばかりではないので、継続的な関わりが必要である。

Action (今後の課題・取組の方向性)

福祉部門や教育委員会に学校側が躊躇することなく家庭的に課題のある子どもの相談ができる関係を構築する。そのためにも、福祉部門と教育委員会・学校等との連携強化を図る。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和6年度	所管課名	社会教育課
推進計画の重点方針	2 豊かな心の育成		
推進計画の 施策の方向性	子どもたちの豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、自他の生命の尊重、他者への思いやり、自己肯定感、人間関係を築く力、社会性を育む		
推進計画の主な取組	文化芸術等による子どもの豊かな心の育成		

① 達成目標 (Plan)	※¹ 子どもたちに芸術や伝統文化に触れる機会を創出するとともに、美術自然史館やこども科学館事業と連携し、子どもたちの情操を育み、創造性を高める教育を推進する。 (※¹ に該当する部分は、内容が重なる評価資料があるため、健やかな体の育成①地域文化活動の振興の資料に記載する。
② 実施状況 (Do)	1. 美術自然史館 (1) 特別展 のぞいてみよう! 模型の世界 期間: 令和6年6月29日～8月25日 来場者数: 6,308人 (2) 特別展関連事業 ワークショップ 「ミニチュア家具を作ろう」ほか2回 開催日: 令和6年7月7日、7月20日、8月11日 延べ参加者数: 45人 (3) 教育普及活動 ①ミニ化石発掘体験 開催日: 令和6年5月5日 参加者数: 41人 ②化石教室 年2回開催 開催日: 令和6年7月15日、令和7年1月11日 延べ参加者数: 32人 ③おでかけミュージアム 開催日: 令和6年9月23日 参加者数: 14人 (4) その他企画展(絵画等) 年5回 延べ来場者数: 6,088人 2. こども科学館 (1) 月イチ理科室 年12回実施 延べ参加者数: 208人 (2) わくわくサイエンス 開催日: 令和6年8月3日、令和7年1月12日、3月23日 年3回実施 延べ参加者数: 43人 (3) サイエンスデー 会場: 滝川高校 開催日: 令和6年12月7日 (4) おでかけミュージアム 開催日: 令和6年8月30日ほか6回 延べ参加者数: 96人 3. 学校・大学・企業と連携した取組 出張 STEAMer's ラボ in 滝川第三小学校 3Dプリンターで羊蹄山をつくろう! 会場: 滝川第三小学校 6年生延べ47人が参加 開催日: 11月20日 協力: 北海道教育大学札幌校(佐藤正直准教授)、大日本印刷株式会社

③ 評価・反省点 (Check)	デジタル化社会の進展するなか、子どもたちの情操や創造性を高めるための取組は重要である。 令和6年度に実施した美術自然史館やこども科学館の事業は、こうした様々な力を高める入り口のプログラムであり、興味関心を持った児童は継続して参加する傾向にある。現在、指導員には、より多くの児童に興味を持っていただけるようプログラムの調査・研究・実践をしていただいているが、時代にあったプログラム作成など、さらなる工夫が必要と考えている。 令和6年度は、新規事業で出張ラボを実施し、北海道教育大学や大日本印刷株式会社などと新たに関係を構築することができたことは、大変有意義な取組につながったところであり、今後も連携を大切にしながら事業の推進につなげたい。
④ 今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	令和8年度には、新しい海洋センターのオープンが予定されており、施設2階部分に、こども科学館機能の移転を予定している。新センターでは、探求的な学習要素を取り入れ、創造性を高めるプログラムの導入を計画しており、オープンに向けて、引き続き関係機関との連携を図り、効果的プログラムを検討してまいりたい。

全体を通じて（評価ポイント）

豊かな心を育むための取組として、美術自然史館やこども科学館での各種体験活動を継続的に実施してきました。

さらに令和6年度は、大学や企業との連携を図りながら、新たな事業にも取り組み、より多様で実践的な学びの機会を提供することができました。

【情報化社会への対応と想像力・判断力の育成】

現代は、情報化社会の進展により、世界中の情報を自宅や学校で簡単に得られる時代となりました。

一方で、こうした環境の中では、正しい情報を見極める判断力、想像力や創造的な思考力がこれまで以上に求められています。こうした力を子どもたちの中から引き出し、育成するためのプログラムの工夫・充実を図りながら、事業を推進していきます。

【今後に向けて】

急速に変化する社会環境の変化を踏まえながら、今後も教育内容の見直しや改善を重ねながら、現代の子どもたちに必要とされる多様な力の育成とともに、心豊かな成長を支える教育の推進に努めてまいります。現状の取組の評価とともに、今後の展開に向けて、皆さまからのご意見・ご提案をいただければ幸いです。

外部評価会議委員からの評価・意見

- ・科学の入り口となる、興味関心を持つきっかけの事業として魅力的ある事業だと感じた。リピーターが多いということであれば、面白さ・楽しさに気づけばさらに継続した参加が見込まれると思う。多くの児童生徒や保護者にも興味関心をさらに高めてもらえるように周知方法を工夫してほしい。
- ・t e t o r uに配信するなど周知方法を見直してもらえると、保護者としても見逃さずにイベントに参加できると思う。
- ・子どもと一緒に参加する際に、HPを確認するのだが、もう少し詳細や留意事項を記載してもらえると安心して行きやすくなると思う。
- ・不登校児童生徒に対して、科学館のプログラムを通じて良い効果が見込めるのではないか。こうした子どもたちを対象にする取組も考えていただきたい。

豊かな心の育成 文化芸術等による子どもの豊かな心の育成

Plan (達成目標)

子どもたちに芸術や伝統文化に触れる機会を創出するとともに、美術自然史館やこども科学館事業と連携し、子どもたちの情操を育み、創造性を高める教育を推進する。

上記下線部分については、内容が重なる評価資料があるため、健やかな体の育成 地域文化活動の振興の資料に記載する。

Do (実施状況)

簡単な工作活動などから理科の学びと創造力、探求心などを育む

美術自然史館の取組

(1) 特別展 のぞいてみよう! 模型の世界

期 間: 令和6年6月29日～8月25日 来場者数: 6,308人

(2) 特別展開連事業

ワークショップ「ミニチュア家具を作ろう」ほか2回

開催日: 令和6年7月7日、7月20日、8月11日 延べ参加者数: 45人

(3) 教育普及活動

ミニ化石発掘体験

開催日: 令和6年5月5日 参加者数: 41人

化石教室 年2回開催

開催日: 令和6年7月15日、令和7年1月11日 延べ参加者数: 32人

おでかけミュージアム

開催日: 令和6年9月23日 参加者数: 14人

(4) その他企画展(絵画等)

年5回 延べ来場者数: 6,088人



ミニチュア
家具制作中

こども科学館の取組

(1) 月イチ理科室

年12回実施 延べ参加者数: 208人

(2) わくわくサイエンス

開催日: 令和6年8月3日、令和7年1月12日、3月23日 年3回実施

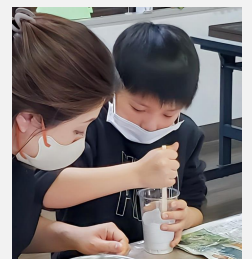
延べ参加者数: 43人

(3) サイエンスデー

開催日: 令和6年12月7日 会 場: 滝川高校

(4) おでかけミュージアム

開催日: 令和6年8月30日ほか6回 延べ参加者数: 96人



学校・大学・企業と連携した取組

● 出張STEAMer'sラボin滝川第三小学校

3Dプリンターで羊蹄山をつくろう!

開催日: 令和6年11月20日

会 場: 滝川第三小学校

6年生延べ47人が参加。

協 力: 北海道教育大学札幌校(佐藤准教授)

大日本印刷株式会社



NHKニュースで取り上げていただいた
ニュース映像をご覧ください。

NHKニュースリンク先 <https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20241120/7000071425.html>

豊かな心の育成 文化芸術等による子どもの豊かな心の育成

Check (評価・反省点)

デジタル化社会の進展するなか、子どもたちの情操や創造性を高めるための取組は重要である。

令和6年度に実施した美術自然史館やこども科学館の事業は、こうした様々な力を高める入り口のプログラムであり、興味関心を持った児童は継続して参加する傾向にある。現在、指導員には、より多くの児童に興味を持っていただけるようプログラムの調査・研究・実践をしていただいているが、時代にあったプログラム作成など、さらなる工夫が必要と考えている。

令和6年度は、新規事業で出張ラボを実施し、北海道教育大学や大日本印刷株式会社などと新たに関係を構築することができたことは、大変有意義な取組につながったところであり、今後も連携を大切にしながら事業の推進につなげたい。

Action (今後の課題・取組の方向性)

令和8年度には、新しい海洋センターのオープンが予定されており、施設2階部分に、こども科学館機能の移転を予定している。新センターでは、探求的な学習要素を取り入れ、創造性を高めるプログラムの導入を計画しており、オープンに向けて、引き続き関係機関との連携を図り、効果的プログラムを検討してまいりたい。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 6 年度	所管課名	社会教育課
推進計画の重点方針	3 健やかな体の育成		
推進計画の 施策の方向性	キャリア教育を中心として、地域や企業と学校が連携して、リアルな体験活動の充実に取り組む また、地域の文化活動やスポーツ活動において、地域団体等との連携・協働により、文化活動やスポーツ活動を推進する		
推進計画の主な取組	地域文化活動の振興		

達成目標 (Plan)	文化関係団体と連携しながら、市民一人ひとりが日常的に文化芸術に親しめる環境づくりや主体的に実施する文化活動を推進するとともに、地域の歴史や伝統文化が次世代へ継承される取組を支援する。
実施状況 (Do)	1. 学校訪問・児童対象事業 (1) アウトリーチ事業・『トラベリングバンド「ひのき屋」と音楽を楽しもう!!』 開催日：令和 6 年 7 月 10 日 会 場：西小学校 参加者：212 人(午前・午後 2 公演) (2) 滝川市内文化団体による伝統文化教室 (吟剣詩舞：和翔流、箏曲：滝川三曲会、民謡：空知地区民謡連合会) 開催日：令和 6 年 10 月 25 日 会 場：江部乙小学校 参加者：18 人 2. 鑑賞機会の充実・市民参加型事業 (1) ロビーコンサート『Autumn Concert』 開催日：令和 6 年 10 月 17 日 会 場：滝川市役所 1 階ロビー 来場者：140 人 (2) こどもミュージックフェスタ 開催日：令和 6 年 6 月 15 日 会 場：市民交流プラザ 来場者：800 人 (3) 「風が見つけた街」たきかわ音楽祭 開催日：令和 6 年 4 月 28 日・29 日 会 場：砂川市、新十津川町 来場者：2 会場合計 450 人 (4) 滝川市民文化祭 開催日：令和 6 年 10 月 26 日・27 日 会 場：市民交流プラザ、美術自然史館 来場者：2 会場合計 1,256 人 令和 6 年度から子ども音楽発表会も導入した。
評価・反省点 (Check)	文化芸術に触れる機会充実の取組については、アウトリーチ事業では、子どもたちがより、音楽に親しみやすい演者を招聘することで、音楽に触れ合うことの楽しさを多くの子どもたちに知っていただくことができた。 また、学校に出前講座として行った伝統文化教室では、市内で活動する文化団体の方々にご協力をいただき、普段触れる機会の少ない、吟剣詩舞、箏曲、民謡といった体

	験をしていただくことができた。子どもたちにとっては新たな発見となり、ご協力いただいた文化団体の皆様には、子どもたちの感動する表情や言葉に触れ、地域の子どもたちに教える楽しさを新たに発見していただく場となり、双方に良い効果をもたらした事業となった。
今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	文化芸術に触れる機会は、子どもたちの情操を育み、創造性を高めるとともに、可能性や選択肢を広げる取組でもある。健やかな体、豊かな心の育成には大変重要な事業であり、継続的な取組が必要と考えている。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和 6 年度	所管課名	社会教育課
推進計画の重点方針	3 健やかな体の育成		
推進計画の 施策の方向性	キャリア教育を中心として、地域や企業と学校が連携して、リアルな体験活動の充実に取り組む また、地域の文化活動やスポーツ活動において、地域団体等との連携・協働により、文化活動やスポーツ活動を推進する		
推進計画の主な取組	スポーツ活動の推進		

達成目標 (Plan)	市民一人ひとりが日常的にスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、一般財団法人滝川市スポーツ協会と連携しながら、スポーツを通じた地域交流・多世代交流を推進する。
実施状況 (Do)	1. プロバスケットボールチーム レバンガ北海道訪問事業プロジェクト受入事業 会場：滝川第一小学校、西小学校 延べ参加者：138 人 2. アダプテッドスポーツ出前授業 会場：滝川第二小学校、西小学校、江部乙小学校 延べ参加者：82 人 3. 國學院大學陸上競技部駅伝チーム滝川合宿受け入れ事業 4. 滝川コスモスマラソン 2024 会場：市内特設コース 参加者：532 人 5. マリンスポーツフェスティバル 会場：B & G 海洋センター 来場者：1,137 人 6. スノーレク 2025 会場：北電公園スロープ 参加者：140 人 7. 滝川スポーツフェスティバル 会場：滝川スポーツセンター第一体育館 参加者：59 人
評価・反省点 (Check)	スポーツ活動の推進では、特にプロスポーツ選手や専門家が学校訪問を行ったものやトップアスリートが指導するスポーツフェスティバルでは、講師が子どもたちの興味関心を引き出し、いきいきと表情豊かに取り組む姿が大変印象的であった。こうした機会の重要性を感じる事業であった。
今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	スポーツ活動の推進においても子どもたちの情操を育み、創造性を高めるとともに、可能性や選択肢を広げる取組でもある。健やかな体、豊かな心の育成には大変重要な事業であり、継続的な取組が必要と考えている。また、日常的に行われるためには、地域で活動されている方々との連携が重要となる。このことは、部活動の地域展開においても地域の指導者、有識者との連携が大変重要なカギとなると考えている。

全体を通じて（評価ポイント）

第3期教育推進計画においては、健やかな体の育成と豊かな心の育成が密接に関連しており、これらの目標に資するさまざまな事業を一体的に実施しています。

【文化活動の振興】

文化活動の分野では、子どもたちや市民が本物の芸術文化に触れる機会の提供をするため、学校訪問事業として、プロの音楽家や伝統文化を担う文化連盟加盟の3団体を学校に派遣し、子どもたちに多様な文化体験の機会を提供しました。

また、市役所ロビーコンサートでは、毎年プロの演奏家を招き、広く市民が音楽に親しむ機会を継続し、各種文化イベント（こどもミュージックフェスタ、風が見つけた街たきかわ音楽祭、滝川市民文化祭）では、市民が日頃の活動成果を発表し、多くの市民に鑑賞していただく機会を設けました。

【スポーツ活動の推進】

スポーツ活動の推進では、プロバスケットボール選手による学校訪問や、市民参加型のスポーツ事業の実施を通じて、子どもたちや市民が日常的にスポーツに親しめる機会を提供しました。

スポーツ分野は、このほかにも競技団体を主体とするさまざまな活動が活発に推進されており、多様な機会が提供されています。

【実体験の重要性】

デジタル社会の進展により、疑似体験の機会は増加していますが、健やかな体と豊かな心の育成には、実体験が欠かせません。特に、芸術文化に直接触れることや、日常的なスポーツ活動を通じて得られる体験は、人格形成にも大きな影響を与えていると考えています。

また、社会の変化や国の方針（例：部活動の地域展開）を踏まえると、今後は地域の力を活かした文化芸術・スポーツの振興がますます重要となります。

【今後に向けて】

地域における文化芸術・スポーツ活動が持続可能な形で推進されるためには、現状の取組の評価とともに、将来に向けた新たな方策の検討も必要と考えています。今後の展開に向けて、皆さまからのご意見・ご提案をお寄せいただければ幸いです。

外部評価会議委員からの評価・意見

- ・文化芸術・スポーツは、興味関心が高まり、向学心に繋がると、どのような子どもでも能力が開花する可能性があると思う。さまざまな機会を通じて文化芸術やスポーツに触れ合えるように、機会の充実に引き続き取り組んでいただきたい。
- ・子どもが楽しく何かを学べる時間や環境、タイミングを作ってあげることが非常に大切だと思う。

健やかな体の育成 地域文化活動の振興

Plan (達成目標)

文化関係団体と連携しながら、市民一人ひとりが日常的に文化芸術に親しめる環境づくりや主体的に実施する文化活動を推進するとともに、地域の歴史や伝統文化が次世代へ継承される取り組みを支援する。

Do (実施状況)

文化芸術に触れる取組

1. 学校訪問・児童対象事業

(1) アウトリーチ事業・『トラベリングバンド「ひのき屋」と音楽を楽しもう!!』

開催日: 令和6年7月10日

会場: 西小学校 参加者: 212人(午前・午後2公演)



(2) 滝川市内文化団体による伝統文化教室

(吟剣詩舞: 和翔流、箏曲: 滝川三曲会、民謡: 空知地区民謡連合会)

開催日: 令和6年10月25日

会場: 江部乙小学校 参加者: 18人

NHKニュースで取り上げて
いただいた伝統文化教室の映
像をご覧ください。

NHKニュースリンク先

<https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20241025/7000070746.html>



2. 鑑賞機会の充実・市民参加型事業

(1) ロビーコンサート『Autumn Concert』

開催日: 令和6年10月17日

会場: 滝川市役所1階ロビー 来場者: 140人

出演者: トランペット: 野村勝紀、三橋葉美 ピアノ: 野村さおり

プログラム トランペット2重奏

♪ オラトリオ『ソロモン』から「シバの女王の入城」/ ヘンデル

♪ You Raise Me Up / ロルフ・ラヴランド

♪ 糸 / 中島みゆき ほか



(2) こどもミュージックフェスタ

開催日: 令和6年6月15日

会場: 市民交流プラザ 来場者: 800人

(3) 「風が見つけた街」たきかわ音楽祭

開催日: 令和6年4月28日・29日

会場: 砂川市、新十津川町 来場者: 2会場合計450人

(4) 滝川市民文化祭

開催日: 令和6年10月26日・27日

会場: 市民交流プラザ、美術自然史館 来場者: 2会場合計1,256人

令和6年度から子ども音楽発表会も導入した。



健やかな体の育成 地域文化活動の振興

Check (評価・反省点)

文化芸術に触れる機会充実の取組については、アウトリーチ事業では、子どもたちがより、音楽に親しみやすい演者を招聘することで、音楽に触れ合うことの楽しさを多くの子どもたちに知っていただくことができた。

また、学校に出前講座として行った伝統文化教室では、市内で活動する文化団体の方々にご協力をいただき、普段触れる機会の少ない、吟剣詩舞、箏曲、民謡といった体験をしていただくことができた。子どもたちにとっては新たな発見となり、ご協力いただいた文化団体の皆様には、子どもたちの感動する表情や言葉に触れ、地域の子どもたちに教える楽しさを新たに発見していただく場となり、双方に良い効果をもたらした事業となった。

Action (今後の課題・取組の方向性)

文化芸術に触れる機会は、子どもたちの情操を育み、創造性を高めるとともに、可能性や選択肢を広げる取組でもある。健やかな体、豊かな心の育成には大変重要な事業であり、継続的な取組が必要と考えている。また、日常的に行われるためには、地域で活動されている方々との連携が重要となる。このことは、部活動の地域展開においても地域の指導者、有識者との連携が大変重要なカギとなると考えている。

健やかな体の育成 スポーツ活動の推進

Plan (達成目標)

市民一人ひとりが日常的にスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、一般財団法人滝川市スポーツ協会と連携しながら、スポーツを通じた地域交流・多世代交流を推進する。

Do (実施状況)

スポーツ活動推進の取組

1. 学校訪問・児童対象事業 企業連携

(1) プロバスケットボールチーム

レバンガ北海道訪問事業プロジェクト受入事業

会 場: 滝川第一小学校(5・6年生) 参加者: 66人

西小学校(5・6年生) 参加者: 72人

(2) アダプテッドスポーツ出前授業

講 師: 北海道教育大学 岩見沢校

アダプテッドスポーツ研究室 大山准教授

開催日: 令和6年12月13日午前 会場: 滝川第二小(4年生) 参加者: 29人

開催日: 令和6年12月13日午後 会場: 西小(4年生) 参加者: 44人

開催日: 令和7年2月7日 会場: 江部乙小(5年生) 参加者: 10人



2. 滝川市スポーツ協会主催事業(抜粋) 市民参加型事業

(1) マリンスポーツフェスティバル

開催日: 令和6年7月15日

会 場: B&G海洋センター 来場者: 1,137人

(2) 滝川コスモスマラソン2024

開催日: 令和6年9月8日

会 場: 市内特設コース 参加者: 532人



(3) スノーレク2025

開催日: 令和7年1月25日

会 場: 北電公園スロープ 参加者: 140人

(4) 滝川スポーツフェスティバル

プロスポーツ選手や、もとオリンピック選手などを講師として招聘し、滝川の児童生徒に指導していただく事業。

講 師: 北海道コンサドーレ札幌バドミントンチーム

協 力: ヨネックス株式会社

開催日: 令和7年3月26日

会 場: 滝川スポーツセンター第一体育館 参加者: 中学生59人



3. スポーツ合宿受け入れ事業

國學院大學陸上競技部駅伝チーム

選手22名+監督・コーチ・スタッフ4名 合計26名受け入れ

期 間: 令和6年9月3日~6日



健やかな体の育成 スポーツ活動の推進

Check (評価・反省点)

スポーツ活動の推進では、特にプロスポーツ選手や専門家が学校訪問を行ったものやトップアスリートが指導するスポーツフェスティバルでは、講師が子どもたちの興味関心を引き出し、いきいきと表情豊かに取り組む姿が大変印象的であった。こうした機会の重要性を感じる事業であった。

Action (今後の課題・取組の方向性)

スポーツ活動の推進においても子どもたちの情操を育み、創造性を高めるとともに、可能性や選択肢を広げる取組でもある。健やかな体、豊かな心の育成には大変重要な事業であり、継続的な取組が必要と考えている。また、日常的に行われるためには、地域で活動されている方々との連携が重要となる。このことは、部活動の地域展開においても地域の指導者、有識者との連携が大変重要なカギとなると考えている。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和6年度	所管課名	社会教育課
推進計画の重点方針	4 生涯学習の推進		
推進計画の 施策の方向性	多様化する家庭環境に対し、学校・家庭・地域全体で家庭教育を支える環境を醸成する 地域社会との様々な関わりを通じ、子どもたちが安心して活動できる居場所づくりを進め、地域への愛着や誇りを子どもたちに育成する		
推進計画の主な取組	①スマートフォン等への対応		

① 達成目標 (Plan)	スマートフォン等の長時間利用による生活習慣の乱れやネット依存、いじめや犯罪につながるネットトラブルから子どもたちを守る取組を推進する。 スマートフォン利用に係るリーフレットや情報モラル通信の発行・北海道青少年健全育成条例に基づく携帯電話事業者への巡回実施・ネットパトロールの実施する。
② 実施状況 (Do)	1. 情報モラル教育の推進 (1) 情報モラル通信の発行。(2回) (2) 携帯電話会社を巡回し、青少年が所有する通信機器のフィルタリング調査を行った。(1回) (3) カラオケボックス等を巡回し、有害環境対策及び調査を行った。(1回) (4) 子育て講座を実施した。(1回) 2. ネットトラブル・スマートフォン利用に関する取組 スマホ安全教室を実施した。 市内小学校4校で計7回実施 延べ参加者 264名 【参考】 参考資料として「インターネット利用に関する意識調査（令和5年6月30日～7月21日調査）の中から、スマートフォンの所持率とスマホを所持した時期の調査結果を別添資料に添付。
③ 評価・反省点 (Check)	全国的にネットトラブルは深刻化している。また、滝川市においても令和5年度の調査によりスマートフォンを所持する年齢の低年齢化が進んでいることが判明した。そのため、令和6年度から、児童に直接ネットトラブルの現状や、望ましいスマートフォンの使い方、SNSの危険性を学んでいただくためスマホ安全教室を積極的に実施した。ニュース映像の児童コメントにもあったように実例を交えた説明を分かりやすく行うことで児童の理解を深めることができたと考えている。
④ 今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	ネットトラブル、スマートフォンなどの対応については、スマートフォンを所持する年齢の低年齢化、情報機器の進化、トラブル内容も常に変化していることを踏まえ、今後も児童を対象としたスマホ安全教室は、内容のバージョンアップを行いながら積極的に取り組みたい。

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価シート

対象年度	令和6年度	所管課名	図書館
推進計画の施策	4 生涯学習の推進		
推進計画の重点方針	多様化する家庭環境に対し、学校・家庭・地域全体で家庭教育を支える環境を醸成する 地域社会との様々な関わりを通じ、子どもたちが安心して活動できる居場所づくりを進め、地域への愛着や誇りを子どもたちに育成する		
推進計画の事業項目	②子どもの読書活動の充実		

① 達成目標 (Plan)	子どもの読書習慣が定着するよう、動機づけとなる読書活動の充実を図るとともに、自ら学ぶ力を育むために図書を活用した調べ学習を普及・推進する。第3次子どもの読書活動推進計画（R6～R10年度）の策定・図書館を使った調べ学習の推進・学校との連携による子どもの読書活動を推進する。
② 実施状況 (Do)	第3次子どもの読書活動推進計画（R6～R10年度）に基づき、赤ちゃんに絵本を贈るブックスタートを実施し家庭での読み聞かせの啓発を行うほか、幼稚園や保育所など子どもたちが過ごす場所で本に触れる機会を提供するため、まごころ本箱はこぶっくを実施し、成長過程に寄り添った読書活動を推進し読書の習慣化を図った。 また、地域・学校と連携し「たきかわっ子ワクワクまなびプログラム」として調べ学習を支援した。調べる学習体験講座においては、地域の協力を得て、将来の職業選択に生かせるコースを追加し専門的な体験を通じた学びを提供した。（4コース、親子108名参加）また、調べ学習支援での図書館利用をPRしたことで、調べ学習用図書の貸出が50件（令和5年度比1.6倍）、2,984冊（令和5年度比1.4倍）の利用があった。調べる学習コンクールでは161点と応募点数が微増したほか、郷土・滝川をテーマにした作品が多数見られ、自発的にフィールドワークなども取り入れた優れた作品が増加するなど質の向上も図られた。 学校との連携では、図書館学級文庫を実施し、児童生徒が過ごす教室で本を手にすることができる環境を提供したほか、図書委員を対象に「BOOKセラピー」展示や読み聞かせについて指導をするなど、図書委員会の活動支援を行った。
③ 評価・反省点 (Check)	調べる学習体験講座では警察署や陸上自衛隊、新聞社などにご協力いただき、子どもたちのニーズに合った講座を開設したところ、大変反響が大きく、探究心を育成する機会を提供することができた。 また、図書委員会の活動を支援することで、学校図書館の活性化につながった。
④ 今後の課題・ 取組の方向性 (Action)	地域や企業にご協力をいただき、滝川だから提供できるキャリア教育や郷土愛をテーマにした体験を子どもたちに提供していけるよう、子どものニーズを鑑みながら内容の充実を図る。また、多様なテーマに対応できるよう、調べ学習用図書の充実や図書を活用した調べ学習の推進に努める。 図書委員の活動が盛んになることで、より活用される学校図書館となるよう積極的に支援する。

全体を通じて（評価ポイント）

生涯学習推進の取組として、学校や社会教育施設と連携して各種活動を継続的に実施し、スマホ安全教室のように、新たに職員を派遣して行う取組も推進してきました。

【スマートフォン等への対応】

令和5年度の調査では、滝川市においてもスマートフォンを所持する年齢の低年齢化が進んでいることが明らかになりました。

全国的には、子どもたちが巻き込まれるネットトラブルやSNSをめぐる重大な問題が多発しており、その内容はますます多様化・複雑化しています。変化に合わせて教育内容のバージョンアップが必要であり、今後も新たな要素を取り込みながら継続的に推進していく考えです。

【子どもの読書活動の充実】

読書習慣の定着や動機づけとなるよう、子どもたちの成長段階に合わせた様々な取組を推進してきました。中でも調べる学習体験講座では、地域や企業からの協力も得られるようになり、令和7年度はさらに充実した取組を目指していることから、特に調べ学習支援に対する評価や内容についてご意見をいただきたいです。

【今後に向けて】

急速に変化をし続ける社会環境の中で、子どもたちはもちろんのこと、大人も生涯にわたって新たな学びが必要であり、生涯学習の必要性はますます高まっていると言えます。

この評価項目では、スマートフォン対応の取組と読書活動推進の取組にクローズアップしておりますが、豊かな心の育成でも触れたとおり、現在の社会環境の中では、正しい情報を見極める判断力、想像力や創造的な思考力がこれまで以上に求められており、スマートフォンやインターネットの正しい使い方と同じように、読書活動の充実もこうした力を引き出し育成するための大きな役割を果たすものと考えております。今後も教育内容や活動に工夫・充実を図りながら、事業を推進していきますが、現状の取組の評価とともに、今後の展開に向けて、皆さまからのご意見・ご提案をいただければ幸いです。

外部評価会議委員からの評価・意見

- ・スマートフォンを所持する年齢が低年齢化しており、トラブルや事件も深刻化している。今後ますますスマホ教室など情報モラル教育が重要になってくる。
- ・ICT教育も進み小学生からネット環境に触れている状況である。すでにフィルタリングやアクセス制限等の方策を立てているが、さまざまな対策を継続して行ってほしい。
- ・活字離れしている中、子ども自らが本に向かっていく仕組みを作っており、今後も本の良さを周知してほしい。
- ・さまざまな場面で、図書館の取組の成果を感じている。デジタル化も進んでいるが、紙の良さを伝えてほしい。

生涯学習の推進 ①スマートフォン等への対応

Plan (達成目標)

スマートフォン等の長時間利用による生活習慣の乱れやネット依存、いじめや犯罪につながるネットトラブルから子どもたちを守る取組を推進する。スマートフォン利用に係るリーフレットや情報モラル通信の発行、北海道青少年健全育成条例に基づく携帯電話事業者への巡回実施、ネットパトロールの実施をする。

Do (実施状況)

情報モラル教育の取組

1. 情報モラル教育の推進

- (1) 情報モラル通信の発行。(2回)
- (2) 携帯電話会社を巡回し、青少年が所有する通信機器のフィルタリング調査を行った。(1回)
- (3) カラオケボックス等を巡回し、有害環境対策及び調査を行った。(1回)
- (4) 子育て講座を実施した。(1回)

2. ネットトラブル・スマートフォン利用に関する取組

社会教育課から職員を各学校に講師として派遣。

インターネットの望ましい使い方、SNSに潜む危険性などを実例を交えながら講話した。

【スマホ安全教室の実施】

- ① 滝川第三小学校4・5・6年生 開催日：令和7年1月22日及び24日
延べ参加者：146人
- ② 西小学校6年生 開催日：令和7年2月7日
参加者：37人
- ③ 滝川第一小学校4・5年生 開催日：令和7年2月14日、18日、21日
延べ参加者：68人
- ④ 江部乙小学校5・6年生 開催日：令和7年3月11日
延べ参加者：13人

市内小学校4校で計7回実施 延べ参加者：264名

NHKニュースで
取り上げていただ
いたスマホ安全
教室のニュース映
像をご覧ください。



NHKニュースリンク先 <https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20250122/7000072798.html>

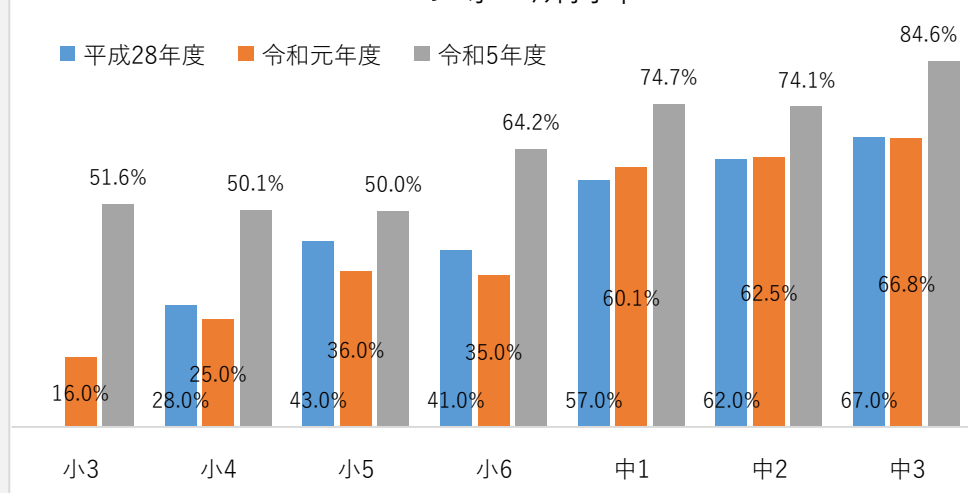
【参考】「インターネット利用に関する意識調査抜粋…調査期間：令和5年6月30日～7月21日

(1) スマートフォン(携帯電話を含む以下、スマホとする)やタブレットの所持率 (前回調査との比較)

※調査対象：小学3年生以上中学3年生以下

回答数：児童1,012件中、所持552件(54.5%) 生徒748件中、所持576件(77.0%)

スマホ等の所持率



スマホ等の所持については、回答のあった児童の約5割、生徒では7割以上が専用に所持している。

前回(令和元年度)調査と比較し、児童生徒ともに所持率が増となっている。

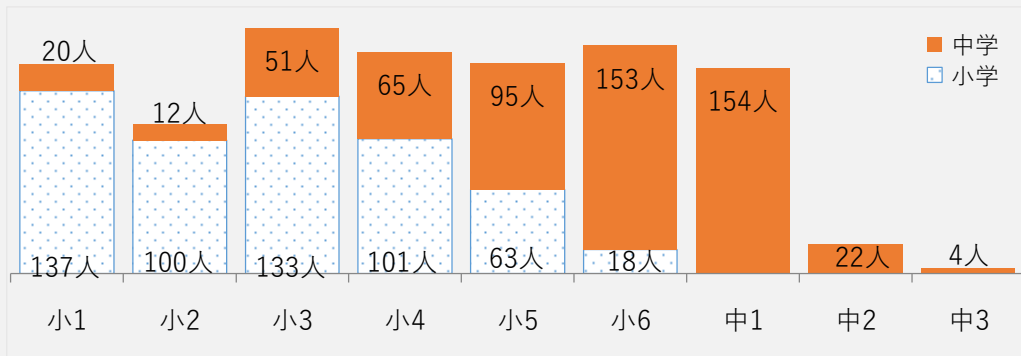
※平成28年度の調査時は、小学4年生以上が調査対象であった。

生涯学習の推進 ①スマートフォン等への対応

【参考】「インターネット利用に関する意識調査抜粋…調査期間:令和5年6月30日～7月21日

(3) スマホを所持した時期

(回答数:児童552件、生徒576件)



児童生徒がスマホを所持する時期は、低年齢化が進んでいる。

児童生徒の所持が上昇する時期は、小学校卒業を迎える6年生、中学校へ進級する中学1年生となっている。

Check (評価・反省点)

全国的にネットトラブルは深刻化している。また、滝川市においても令和5年度の調査によりスマートフォンを所持する年齢の低年齢化が進んでいることが判明した。そのため、令和6年度から、児童に直接ネットトラブルの現状や、望ましいスマートフォンの使い方、SNSの危険性を学んでいただくためスマホ安全教室を積極的に実施した。ニュース映像の児童コメントにもあったように実例を交えた説明を分かりやすく行うことで児童の理解を深めることができたと考えている。

Action (今後の課題・取組の方向性)

ネットトラブル、スマートフォンなどの対応については、スマートフォンを所持する年齢の低年齢化、情報機器の進化、トラブル内容も常に変化していることを踏まえ、今後も児童を対象としたスマホ安全教室は、内容のバージョンアップを行いながら積極的に取り組みたい。

生涯学習の推進 子どもの読書活動の充実

Plan (達成目標)

子どもの読書習慣が定着するよう、動機づけとなる読書活動の充実を図るとともに、自ら学ぶ力を育むために図書を活用した調べ学習を普及・推進する。

Do (実施状況)

- 子どもの読書活動が定着するよう動機づけとなる読書活動の充実を図る。

子どもの読書活動の推進

【ねらい】

第3次子どもの読書活動推進計画(R6～R10年度)に基づき、家庭での読み聞かせの啓発や子育て施設で本に触れる機会を提供することで成長過程に寄り添った読書活動を推進し読書の習慣化を図る。

課題を解決する力や豊かな心を育むために、学校や地域と連携し探求的な学習を支援する「たきかわっ子ワクワクまなびプログラム」を推進する。

【具体的活動】

BOOKスタート:4・5か月児相談時に絵本1冊(5冊の中から選定)、オリジナルトートバッグを贈呈 163人
まごころ本箱「はこぶっく」:保育所・幼稚園・学童クラブ・地域子育て支援センター・こども発達支援センターほか
利用件数342件、貸出冊数17,989冊

「たきかわDE調べる学習体験講座」:参加親子108人

陸上自衛隊コース、警察コース、国際交流コース、メディアコースを実施

「第9回滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」:応募作品161点

審査会・表彰式・展示を実施、最優秀作品3点を全国コンクールへ出展

調べ学習用図書の貸出:市内全小学校、利用件数50件、貸出冊数2,984冊

「夏休みの攻略本～調べもの・工作編～」展示・チラシ配付:全児童

「2024調べる学習のススメ」の配付:全児童・教諭

図書館学級文庫:市内全小・中学校、利用件数388件、貸出冊数16,720冊

読書アルバム:教育長表彰(年間500冊以上読んだ児童)10名、100冊毎達成者延べ143人

⑩図書委員会支援:読み聞かせ指導・BOOKセラピー・としょかんBINGO

たきかわDE調べる学習体験講座～警察コース～



第9回滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール作品展



Check (評価・反省点)

調べる学習体験講座では警察署や陸上自衛隊、新聞社などにご協力いただき、子どもたちのニーズに合った講座を開設したところ、大変反響が大きく、探究心を育成する機会を提供することができた。

また、図書委員会の活動を支援することで、学校図書館の活性化につながった。

生涯学習の推進 子どもの読書活動の充実

Action(今後の課題・取組の方向性)

地域や企業にご協力をいただき、滝川だから提供できるキャリア教育や郷土愛をテーマにした体験を子どもたちに提供していけるよう、子どものニーズを鑑みながら内容の充実を図る。また、多様なテーマに対応できるよう、調べ学習用図書の充実や図書を活用した調べ学習の推進に努める。

図書委員の活動が盛んになることで、より活用される学校図書館となるよう積極的に支援する。